

## アドバンス・ケア・プランニング(ACP)について

昨年12月に「都道府県別生命表」の平成27年分が発表され、滋賀県は平均寿命が男性1位、女性は4位でした。平均寿命のうち、健康で活動的に暮らせる期間を健康寿命といいます。誰しも、できるだけ自分のことは自分でしたい、元気で過ごしたいと考えておられるでしょう。

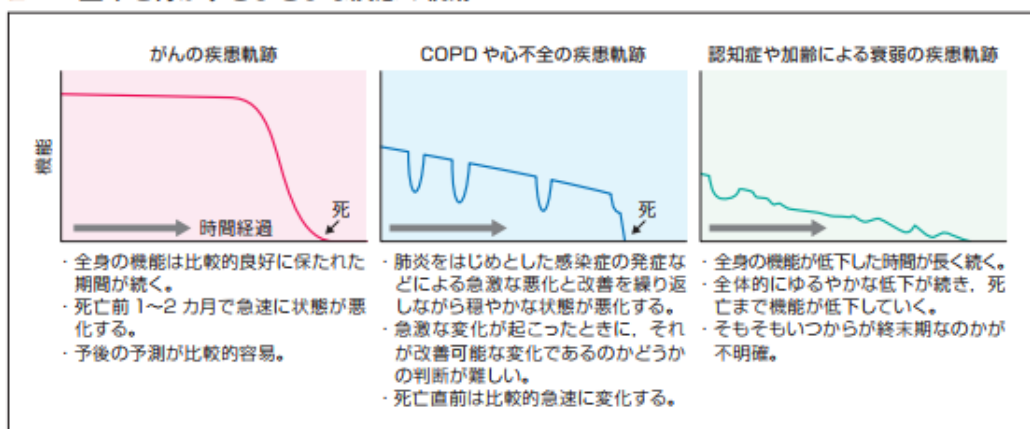
「将来の意思決定能力の低下に備えて、今後の治療・ケア・療養に関する意向、代理意思決定者などについて患者・家族等、そして医療者があらかじめ話し合うプロセス」をアドバンス・ケア・プランニング(ACP)と言います。



右の図は、病気の経過を3つのパターンに分けたものです。

あらかじめ、日常生活がしづらくなった時、どこでどのように過ごしたいかを、家族や医療者に伝えたことがありますか？

生命を脅かすさまざまな疾患の軌跡



2018年の年明けに、厚生労働省は終末期医療に関し治療方針の決定手順などを定めた国の指針(ガイドライン)を改定する方針を決めた、とのニュースが流れました。「患者が最期の過ごし方を周囲と話し合い、意思決定できるよう医師らが支援することの重要性も盛り込む」(京都新聞2018年1月7日)と書かれています。

ACPは、自分が大事にしたい想いを周りの人に伝えることです。気持ちはその都度、変わるかもしれませんので、ACPでは、プロセスつまり経過、「なぜ、そのように思うのか？」を大切にしています。事前指示書のような1枚の紙では終わらないことも多いでしょう。



参考・引用文献：新版 がん緩和ケアガイドブック.日本医師会

人生の最終段階の話ですが、ACPは、「どのように、自分らしく過ごすか？」の「生きるため」の話し合いです。



あなたの思いを 家族や医療者に ぜひ伝えてください。

文責 がん化学療法看護認定看護師 川嶋 頼子